スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

新潟県 湯沢町

自 治 体 名 ： 新潟県湯沢町
担 当 課 名 ： 湯沢町教育委員会教育課
電 話 番 号 ： 025-784-2211

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	357.3 ㎢
人口	8,063 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	141 人
部活動数	10 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、湯沢町の部活動は、陸上部、バスケットボール部、野球部、女子バレーボール部、男子テニス部、女子テニス部、卓球部、スキー部、吹奏楽部、文化部と10種で活動している。

令和4年度に指導者を募集し、令和5年度から、学校部活動の「部活動指導員」として、また、学校外活動の「地域指導員」として、教員に代わり主に週末の指導を行っている。

湯沢町の改革は、国のガイドラインに沿って、先ずは休日の部活動の地域移行を段階的にスタートした。

しかし、地域移行を、部活動の単なる地域スライドとするビジョンでは、生徒数の減少や指導者のライフワークバランスだけをとってみても、持続可能な活動とはならない。

今後の課題としては、湯沢町で学校部活動がなくなった後、子どもたちのスポーツ活動をどのようなものにしていくのか、また、どのようなかたちが湯沢町では実現可能なのかといったビジョンを明確にするとともに、どこまで町が支援し、どこまで受益者に負担してもらうのかを保護者の理解を得ながら、軌道修正しつつシステムを構築していく必要がある。

1　湯沢中の過去３年間の推移

湯沢中においては、ここ数年部員数の減少により活動に支障のある部活がある。

	R4 年	R5 年	R6 年春	R6 年秋	備考
生徒数	１３９	１３２	１４１	１４１	＊毎年転出入が多く、変動あり
陸上部	１７	１６	１４	6	駅伝には男女とも他の部から助っ人あり
バスケ部	7	8	１０	6	けが人のため新人大会を棄権した
野球部	7	9	8	7	新人大会は塩沢中１年９人と合同で参加
バレー部	１５	１２	１５	１３	特記事項なし
テニス部男子	１９	１４	１５	１１	
テニス部女子	１６	１６	１３	9	
卓球部	１２	9	１７	１４	
スキー部	7	8	7	7	
吹奏楽部	１３	7	7	6	少人数でのコンクール出場となる
文化部	9	１８	１６	１０	

出典：令和6年度第2回湯沢町部活動検討委員会資料

【課題】

湯沢町の現状にマッチしたビジョンで進んでいない。

少ない参加者のなか、専任講師をやとえば可能！？

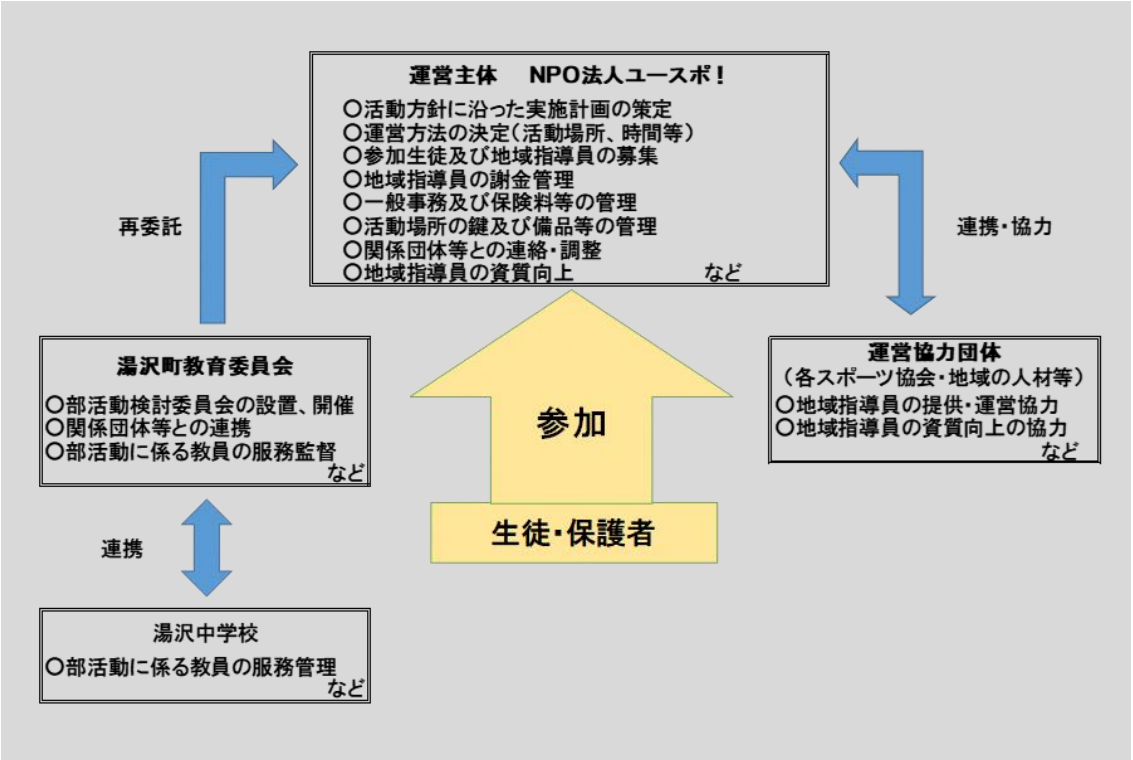
持続可能な活動形態とは？

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・部活動検討委員会の設置、開催
・部活動検討委員会作業部会の設置、開催
・関係団体との連携
・部活動に係る教員の服務監督

◉首長部局

湯沢町では教育委員会に置いて
スポーツ行政を担当

首長部局としては必要に応じ協力・連携

年間の事業スケジュール

令和6年4月	・中学生地域クラブ活動体制整備事業業務委託契約 ・地域部活動ミーティング＆研修会
令和6年5月	・部活動検討委員会作業部会
令和6年6月	・部活動検討委員会作業部会
令和6年7月	・部活動検討委員会 ・救急法講習会
令和6年9月	・部活動検討委員会作業部会
令和6年10月	・部活動検討委員会
令和6年11月	・部活動検討委員会作業部会 ・指導者募集
令和6年12月	・部活動検討委員会作業部会 ・おたより配布(学園)
令和7年1月	・部活動検討委員会作業部会
令和7年2月	・中学生地域クラブチラシ配布
令和7年3月	・部活動検討委員会 ・次年度中学生地域クラブ参加者募集、受付 ・おたより掲載（町広報紙） ・委託経費決算、成果報告

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	6クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		6クラブ（7部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	11 人	全体の運営スタッフ数	４人（運営団体職員）

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）		実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
中学生地域クラブ	総合型地域スポーツクラブ	野球	月 0-3回	8:30-11:30	1年 2年 3年	3 3 1	４～3月	湯沢学園	1人	0人 ※種目毎の運営スタッフの配置はない ※卓球は湯沢町社会教育関係団体のピンポンクラブ所属のボランティアが時折指導に協力	保険料800円/年間	中体連：部活動 その他：部活動
		女子テニス	月 0-1回	8:30-11:30	1年 2年 3年	4 2 2		湯沢学園	1.5人			
		男子テニス	月 0-2回	8:00-11:00 13:00-16:00	1年 2年 3年	6 1 3		湯沢学園	1.5人			
		陸上	月 0-1回	9:00-11:00	1年 2年 3年	2 2 6		湯沢学園	4人			
		女子バレーボール	月 1-16回	8:30-11:30 16:15-17:00	1年 2年 3年	7 5 3		湯沢学園 旧土樽小学校 湯沢カルチャーセンター	2人			
		卓球	月 0-11回	8:30-11:00 16:30-18:30	1年 2年 3年	10 4 3		湯沢学園 湯沢カルチャーセンター	1人			

③その他、体験会やイベント等の開催実績

既存のジュニアチームとの合同練習や、ジュニアチームの活動時間とつなげて練習等が行われている。

2.実証内容と成果

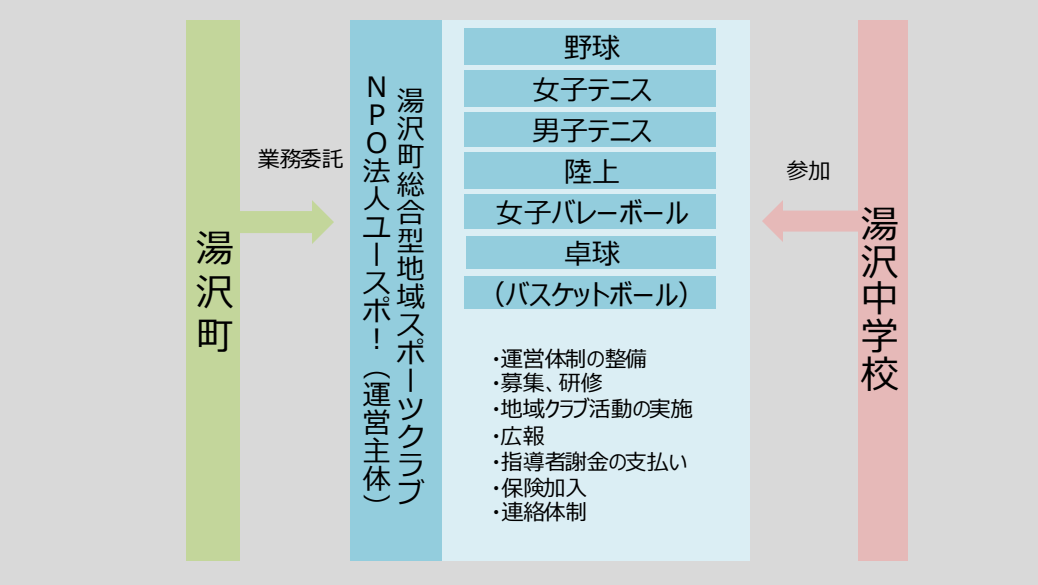
スポーツ庁

主な取組例

●中学生地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、女子テニス、男子テニス、陸上、バレーボール、卓球
運営団体名	NPO法人ユースポ！
期間と日数	野球：女子テニス：男子テニス：陸上：バレーボール：卓球 /４-2月中
指導者の主な属性	地元住民、町スポーツ協会メンバー
活動場所	湯沢学園、旧小学校、湯沢ｶﾙﾁｬｰｾﾝﾀｰ
主な移動手段	車・徒歩
１人あたりの参加会費等（年額）	0円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり： 65歳未満　1,850円/年 65歳以上　1,200円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営団体理事・クラブマネージャー　各１名

役割：中学生地域クラブの受託に係る事業全般の統括を行う

●運営団体職員　１名　パート　1名

役割：中学生地域クラブの運営事務を行う

●指導者　11名

役割：現場責任者として、教室運営及び指導を行う

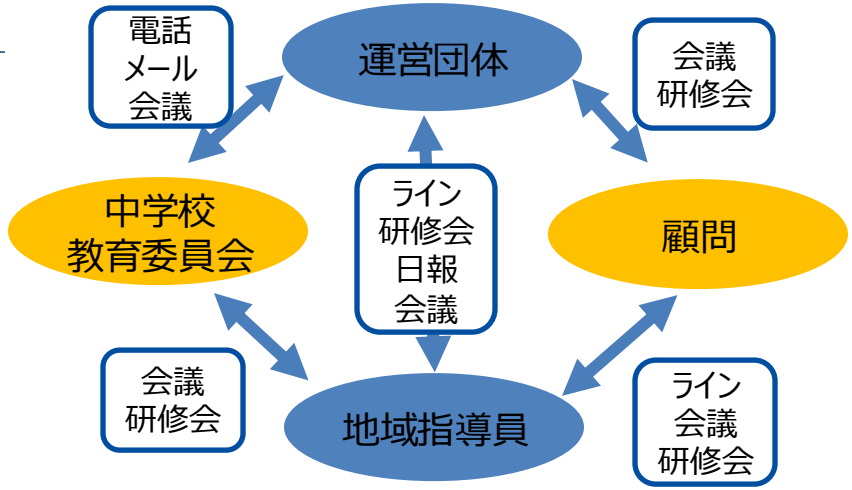
2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・「部活動」と「地域の活動」の実施日が混在しているため、「顧問」「部活動指導員」「地域指導員」はラインで情報共有する。
・教員の異動が毎年あるため、年度初めに顔合わせと研修を兼ねたミーティングを行い連絡先を交換する。
・地域指導員と運営団体との連絡ツールとしてラインを使用し、研修案内、活動報告のリマインドを行う。
・部活動検討委員会のプレ会議として「作業部会」を開催する。



取組の成果

・最初の研修会が顔合わせ及びライン交換の場となる。さらに、中学校から、「中学生を指導するにあたって留意する点」や「自身の指導経験から得た事柄」について講演いただき、年度当初の活動として、普段中学生とコンタクトがない地域指導員にとって有意義な研修となった。
・ラインで文書を共有するため、印刷・郵送費のコスト削減につながっている。
・部活動の地域展開を主導する「教育委員会」、運営団体の「ユースポ！」、改革の場となる「中学校」の3者に、必要に応じ地域指導員を加え、コアなメンバーで行う作業部会を開催することで、解決すべき問題の共有ができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

現場から上がってくる問題を関係各所に伝達し、また、会議の場で問題提起し解決につなげた。（例：顧問との活動予定の共有問題、生徒の出入り口の問題、カギ施錠の問題、セコムの問題等）また、地域移行（展開）の勉強会を開き、部活動検討委員会のメンバーや地域指導員、町議会議員を招き、周知・情報共有と町に適した改革につながるよう努めた。

今後の課題と対応方針

今年度は「作業部会」により、町・学校・運営団体の連携が昨年度より強化した。開始2年目で、解決すべき問題点が浮かび上がってきた。実際に実行して見えてくるものも多い。今後はさらに連携を強化し、必要な部分は軌道修正しつつ、地域に合った適切な地域展開を推進し、また、周囲への周知を徹底し、理解を得ながら進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①



取組事項

・部活動検討委員会で策定された地域指導員の募集要件により募集。運営団体のホームページで常時募集を明示するほか、冬期前に次年度に向けチラシ・広報等による募集キャンペーンを行う。

・部活動検討委員会で策定された地域指導員の選定委員により選定。

・中学生地域クラブの指導員に対し、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。

・中学生地域クラブの指導員と学校の部活動顧問との打ち合わせ会を定期的に開催し、生徒の参加状況などについて情報交換を行う。



地域指導員

・野球　1名
・テニス　3名（有資格2名：JSPO公認スポーツコーチングリーダー、JSPO公認テニスコーチⅠ）
・陸上　4名（有資格者1名：JAAFジュニアコーチⅠ）
・バレーボール　2名（有資格者1名：JSPO公認バレーボールコーチⅠ）
・卓球　1名

属性：会社員、会計年度任用職員、フリーランス、自営業、その他

研修案内　7件

・公認コーチングリーダー養成講習
・中学生の多様なスポーツ推進ミーティング
・運営団体ミーティング（地域指導員2名参加）
・新潟県スポーツ指導者研修会
・スタートコーチ養成講習会
・スポーツ・インテグリティ研修会（アンガーマネージメント）
・指導者スキルアップ講座（Woman's　health）

研修開催　3件

・指導者研修会兼打合せ
・救急法講習
・地域移行（展開）勉強会

資格取得　1名

・JSPO公認
バレーボールコーチⅠ取得

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容と実績

・4/4指導者研修会（地域指導員7名、顧問11名参加）
講演：指導で大事にしていること～中学生の心と体～
講師：湯沢中学校・教頭　山本伸寿氏
内容：「中学生を指導するにあたって留意する点」や「自身の指導経験から得た事柄」を中学校教頭から講演

・7/23救急法講習会（地域指導員7名参加）
普通救命講習Ⅰ受講
内容：心肺蘇生やAEDの使い方を学ぶ

・1/16地域移行勉強会（地域指導員2名参加）
講演：「部活動の地域移行（地域展開）が目指しているものは？～結局湯沢町ではどうなるのがゴール？～」
講師：新潟医療福祉大学教授・副学長　西原康行氏
内容：部活動検討委員会のメンバーや地域指導員が部活動の地域移行のビジョンを共通認識するための勉強会

受講者の声

・4月に開催した指導者研修会では、普段中学生とコンタクトがない地域指導員にとって、今どきの中学生とどのように相対すればよいのか、教頭の長い指導経験から得た教訓等を共有いただき、有意義な研修となった。
・7月に開催した救急法講習は、5年に一度改正されるため、久しぶりの受講者にとってはアップデートとなる講習になった。また、本業でなかなか時間が取れない地域指導員の要望により、出席しやすい夜７時から60分の設定で、地元の消防署に申し込み講習を開催した。
・1月に開催した地域移行の勉強会は、アンケートから「講演が参考になった」「地域展開のビジョンがなんとなく見えた」などの回答が得られた。

取組の成果

指導者募集を随時掲載しているため、時折問い合わせがある。また、今年度1件の新規採用があった。資格取得の助成により、1名資格を取得したことは大きい。また、多感な年齢であり、精神的にも身体的にも成長期の中学生の指導にあたり、学校関係者から生きた講演をいただくことで良い研修となった。

今後の課題と対応方針

安定的な活動の実施、地域指導員一人に対する負担の軽減などから、複数人の指導者を確保するため、積極的な募集を行う。また、指導経験はあるが、指導資格がない指導者が多く、ハラスメント講習やSNSの注意点など、昔と変わったツールやルールについて研修を行う。また、それらの研修をシステム化し、運営団体に構築する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

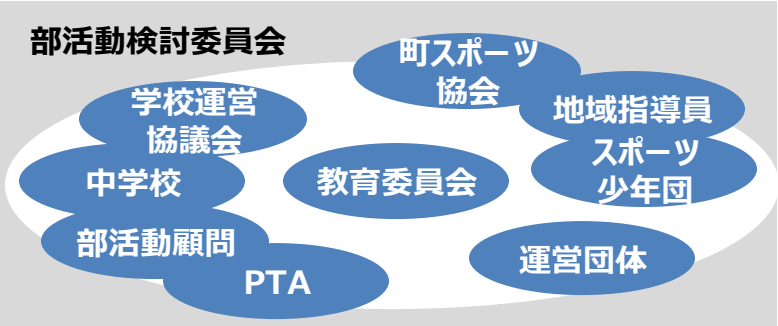
取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

教育委員会、町スポーツ協会、スポーツ少年団、学校運営協議会、中学校、PTA、地域指導員、部活動顧問、運営団体を構成メンバーとする、「部活動検討委員会」を継続。

各組織が連携して湯沢町の部活動の地域展開について考え、活動方針を了承・決定し、運営体制の整備が進むよう連携する。



会議実績

5/28	第1回作業部会	中学校校長、運営団体2名、教育課2名参加
6/4	第2回作業部会	中学校校長、運営団体1名、教育課2名、地域指導員3名参加
7/9	第1回部活動検討委員会	関係者20名参加
9/5	第3回作業部会	中学校校長・教頭・顧問、運営団体2名、教育課2名、地域指導員3名参加
10/10	第2回部活動検討委員会	関係者19名参加
11/13	第4回作業部会	中学校校長・教頭・顧問、運営団体1名、教育課2名、地域指導者3名参加
12/24	プレ作業部会	中学校校長・教頭・顧問、運営団体2名、教育課3名、地域指導員1名参加
1/23	プレ作業部会②	中学校校長・教頭・顧問、運営団体1名、教育課3名、地域指導者3名参加
3/6	第3回部活動検討委員会	開催19名参加



取組の成果

改革を主導する「町」、改革の場となる「学校」、運営団体の「ユースポ！」の三者により、部活動検討委員会前に「作業部会」を頻回に開催することで、連携が強化された。また、開始2年目で明確化した問題点を、現実的な視点で検討することができた。

今後の課題と対応方針

先ずは部活動の地域展開について理解し、作業部会において実現可能で実態に即した案を検討する必要がある。さらに部活動検討委員会で多角的な視点で精査し、各組織へ情報共有を行い理解を求めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

中学生人口が年々減少するなか、地域指導員の中には既存の小学生チームを指導している者もいる。
地域スポーツクラブとして小学生と中学生を一緒に指導することや、既存の大人のクラブチームや社会教育関係団体等と一緒に活動することなど、今後、年齢の枠を超えた運動機会創出の可能性を模索する。

小中合同練習・継続練習の詳細

種目	詳細	指導者数	会場	実施回数
バレーボール	小学生チーム「Jr女子バレーボール」と「中学生地域クラブ」が同じ会場、同じ時間に練習	指導者　各1名	旧土樽小学校体育館	4回
卓球	年長から中学生まで対象の「Jr卓球」と「中学生地域クラブ」が同じ会場で時間をつなげて練習	指導者　共通1名	湯沢カルチャ―センター小ホール	8回
陸上	地域の陸上チーム「アクティブ」と「中学生地域クラブ」が合同練習	指導者　共通2名	湯沢学園	1回



小中合同練習に関する指導者の声

1　中学生が小学生に指導することにより、自身の技術や理解度を認識できることがプラスとなる。
2　その指導する姿を見ながら指導者が、自らの日々の取組を振り返ることができる。
3　小学6年生と中学生のチーム編成を行うなかで、半年から1年後のチーム構想のヒントを得ることができる。
4　ジュニアの指導者に、様々な練習方法を知ってもらう機会となる。　　等々

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②

取組の成果

既存の小学生チームと中学生地域クラブの指導者が同じ場合、小中一貫性のある指導ができ、参加人数が増えることで活動の幅が広がる。小学生は中学生と一緒に練習することにより、刺激を受けモチベーションが上がる。

小学生チームと中学生地域クラブの指導者が別々の場合は、指導する大人の目も増えるため、安全面での保証が期待できる。

また、今年度から正式に発足した「Jr卓球」は、社会教育関係団体の「ピンポンクラブ」や保護者の参加・協力を得て、幼児から高齢者までが卓球に取り組む教室となっている。この形態は、まだ、部活動の地域展開とは別枠で進行しているが、地方における持続可能な地域スポーツクラブのかたちとして期待できる。



Jr卓球の中学生メンバーが準備体操の係

多世代で練習



今後の課題と対応方針

既存の社会教育関係団体や小学生チームと中学生地域クラブが融合し多世代で活動することは、少子化や過疎地のスポーツ環境維持の形態として期待できる反面、部活動の地域展開が、部活動の地域へのスライドといった考えが根強くあることから、中学生以外のメンバーが参加している時点で、事業の対象外と判断される。そのことが、学校施設や町バスの利用、現在学校部活動が得ている町補助金や後援会費などの移譲についての理解を阻害している。また、既存のチームとの融合を進めても、融合後のチームにどこまで部活動の地域展開の事業費を充てることを認めることができるのかなど、検討し決定しなければならない事項が多く存在する。今後は、部活動の地域展開が地域の生涯学習に結び付くことを共通認識し、開始2年で見えてきた課題を解決していきたい。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

〇令和6年度は、受益者負担を昨年同様保険料800円/年のみとした。
〇持続可能な運営を見据え、活動に必要な経費を明らかにする。
〇受益者負担と公的資金の適切な設定について検討する。
〇平日部活動の地域展開を見据え、資金を確保する仕組みづくりを行う。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

令和5、6年度は、種目ごとに個々のチームとしての運営は行っていない。運営団体の一教室「中学生地域クラブ」として、各種目まとめて運営団体が直接運営を行っている。事務に関するインフラは、既にある運営団体のものを利用。練習にかかわる備品は、学校備品を利用している。現在のところ、かかったイニシャルコストは、「学校会場を出入りするための合鍵の作製費」や「実績報告のための文房具の購入」、「ファーストエイドキット」をそろえた程度である。今後、種目ごとにチームとして代表・会計・事務を置き、規約等を定め、個々に教室運営を行い、運営団体の業務を広報、受付、統括業務とした場合にも、イニシャルコストはあまりかからないものと考える。しかし、運営団体の事務所が町所有施設の間借りのため、部活動の地域展開や地域の生涯学習の観点から利便性を重視し、学校敷地内等へ事務所移転となった場合には、事務局整備のイニシャルコストがかかる。

■ランニングコストの分析

現在は、ランニングコストがほぼ指導者謝金のみであるが、地域展開が進むと以下の出費が考えられる。

・人件費：種目ごとにチームとして代表・会計・事務を置き、規約等を定め、個々に教室運営を行う場合、人件費がかかる。

・会場費：現在学校の第1体育館の夜間開放は行われていない。今後、夜間の平日の活動が増えた場合、会場費がかかる可能性がある。また、冬期は積雪のある地域のため、校庭が使えない。そのため、学校の体育館は取り合いとなるため、学校を使えない種目が、町の有料施設で練習する例も増える可能性がある。無償や減免となった場合も、有料施設の貸館業を圧迫することになったり、有料客が優先となり会場が使えない場合もあり得る。

・消耗品費：現在練習にかかわる備品は、学校のものを利用しているが、今後これらの備品の購入費がかかる。

・大会、試合参加費：今後大会、練習試合の活動が増えた場合、大会参加費や交通費がかかる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

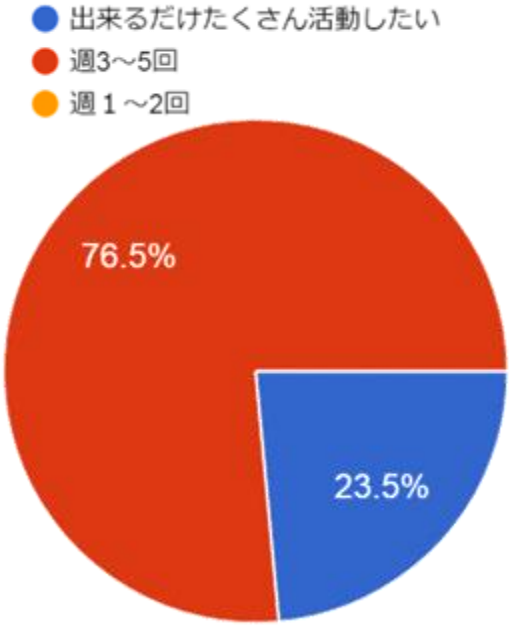
スポーツ庁

取組内容

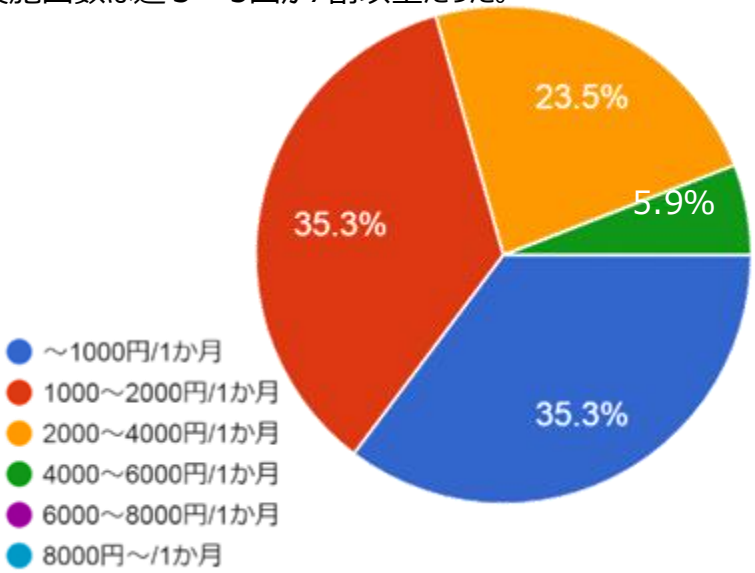
●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

令和５、6年度と地域スポーツクラブを実施したが、活動範囲が流動的で安定していないため、受益者負担額を試算するまでに至らなかったが、保護者アンケートの結果によると、費用負担は2,000円以下/1か月が妥当とする考えが7割だった。また、実施回数は週３～5回が7割以上だった。



出典：ユースポ！実施アンケート（保護者回答17件）
質問⑥お子様の部活動やクラブ活動の頻度について希望をお答えください。



出典：ユースポ！実施アンケート（保護者回答17件）
質問⑦お子様の部活動やクラブ活動の参加費が発生する場合、妥当だと思う金額をご回答ください。

R5年度	申込	練習回数	大会練習試合	謝金費用(研修等含む)	会場費
バレーボール	14	13		124,800	0
女子テニス	11	10		67,050	0
卓球	7	16		79,050	0
男子テニス	11	8		46,050	0
野球	10	13		69,750	0
陸上	14	11		87,300	0
吹奏楽	1	7		36,750	0
	67	78	0	474,000	0

※基本的に1か月のうち休日の1日を地域スポーツクラブで実施
大会参加等はなし

R6年度	申込	練習回数	大会練習試合	謝金費用(研修等含む)	会場費
バレーボール	15	36		123,375	0
女子テニス	8	0		5,250	0
卓球	17	39	1	190,003	34,125
男子テニス	10	16		107,250	0
野球	7	9		45,750	0
陸上	10	9		91,500	0
吹奏楽	6	7		21,000	0
	73	109	1	584,128	34,125

※基本的に1か月のうち休日の1～２日を地域スポーツクラブで実施
大会参加等はなし
一部平日もできる種目は平日も実施

出典：ユースポ！作成資料

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等③

収支バランス

出典：ユースポ！作成資料

参加者数	参加費月	参加費年間	年間収支（実施回数毎）				
			平日３回 休日1回	平日２回 休日1回	平日１回 休日1回	休日1回	平日1回
1	1,000	12,000	-636,000	-492,000	-348,000	-204,000	-132,000
2	2,000	24,000	-624,000	-480,000	-336,000	-192,000	-120,000
3	3,000	36,000	-612,000	-468,000	-324,000	-180,000	-108,000
4	4,000	48,000	-600,000	-456,000	-312,000	-168,000	-96,000
5	5,000	60,000	-588,000	-444,000	-300,000	-156,000	-84,000
6	6,000	72,000	-576,000	-432,000	-288,000	-144,000	-72,000
7	7,000	84,000	-564,000	-420,000	-276,000	-132,000	-60,000
8	8,000	96,000	-552,000	-408,000	-264,000	-120,000	-48,000
9	9,000	108,000	-540,000	-396,000	-252,000	-108,000	-36,000
10	10,000	120,000	-528,000	-384,000	-240,000	-96,000	-24,000
11	11,000	132,000	-516,000	-372,000	-228,000	-84,000	-12,000
12	12,000	144,000	-504,000	-360,000	-216,000	-72,000	0
13	13,000	156,000	-492,000	-348,000	-204,000	-60,000	12,000
14	14,000	168,000	-480,000	-336,000	-192,000	-48,000	24,000
15	15,000	180,000	-468,000	-324,000	-180,000	-36,000	36,000

参加費1000円の場合

参加者数	参加費月	参加費年間	年間収支（実施回数毎）				
			平日３回 休日1回	平日２回 休日1回	平日１回 休日1回	休日1回	平日1回
1	2,000	24,000	-624,000	-480,000	-336,000	-192,000	-120,000
2	4,000	48,000	-600,000	-456,000	-312,000	-168,000	-96,000
3	6,000	72,000	-576,000	-432,000	-288,000	-144,000	-72,000
4	8,000	96,000	-552,000	-408,000	-264,000	-120,000	-48,000
5	10,000	120,000	-528,000	-384,000	-240,000	-96,000	-24,000
6	12,000	144,000	-504,000	-360,000	-216,000	-72,000	0
7	14,000	168,000	-480,000	-336,000	-192,000	-48,000	24,000
8	16,000	192,000	-456,000	-312,000	-168,000	-24,000	48,000
9	18,000	216,000	-432,000	-288,000	-144,000	0	72,000
10	20,000	240,000	-408,000	-264,000	-120,000	24,000	96,000
11	22,000	264,000	-384,000	-240,000	-96,000	48,000	120,000
12	24,000	288,000	-360,000	-216,000	-72,000	72,000	144,000
13	26,000	312,000	-336,000	-192,000	-48,000	96,000	168,000
14	28,000	336,000	-312,000	-168,000	-24,000	120,000	192,000
15	30,000	360,000	-288,000	-144,000	0	144,000	216,000

参加費2000円の場合

支出を謝金のみ、収入を参加費のみとし、謝金単価1,500円/1h、活動時間を平日2h、休日3h、指導者1名とした場合の年間収支を大まかに計算すると以上のようになる。アンケートでは、月の負担額は2,000円以下が妥当が7割だったが、休日1回3hの活動でも参加者が9人以上でないと指導者1名分の謝金を賄えない試算となる。町内中学生の人数が、令和6年度141名といったことから考えても、受益者負担で採算をとるのは難しいのがわかる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等④

取組の成果

令和6年度の取り組みとして、以下項目を挙げていた。
〇持続可能な運営を見据え、活動に必要な経費を明らかにする。
〇受益者負担と公的資金の適切な設定について検討する。
〇平日部活動の地域展開を見据え、資金を確保する仕組みづくりを行う。
　しかし、部活動の地域スライドという形で土日の移行が進んではいるものの、「持続可能な運営」が見えないままそれを模索し、運営自体が流動的に進んでいる現状がある。そのため、活動に必要な経費を明らかにすることや、受益者負担と公的資金の適切な設定を検討するには至らない状況となっている。
　当初、部活動の地域移行とは、地域の指導者を部活動に派遣すればよく、運営団体とは派遣業の代行といった考え方もあったが、この4年間で、派遣業から地域で持続可能な新たなスポーツ環境を構築する事業という認識が徐々に浸透してきた。派遣業と新システム構築では、大分経費も変わる。湯沢町では、どのようなかたちの地域展開をするのか決めていかなければ、持続可能な組織づくりは難しいということを共通認識している。この2年間実施した実績をもとに、ある程度のかたちを現実的に考える準備が整ってきた段階にようやくたどり着いたと言える。

今後の課題と対応方針

　これまで2年間実施してきた実績とおおよその試算により、「持続可能なスポーツ環境」を地方の町で構築・維持することは思った以上に経費がかかることが理解できた。これまで、教員がほぼ無償で行ってきたボランティア行為を、他の誰かが無償で肩代わりしない限り、謝金だけでも多額の経費がかかることが、15ページの表からわかる。町のスポーツ環境を重視し、町としてどこまで力を入れることができるのかをあらためて検討するなかで、受益者負担と公的資金の適切な設定が、令和7年度の課題と言える。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

現在のところ、地域展開が、既存部活動の一部移行に留まっているため、学校施設の利用に関する共通理解は、疑問もなく得られている。さらに今後、地域展開が進み、既存の部活動から新しい地域活動へ改革が進んでも、学校施設、設備、備品などが使用できるよう共通理解を図っていく。

取組の成果

「学校の部活動停止期間中の地域活動」「夜間の地域活動」「保護者や地域住民等の中学生以外が活動に参加している地域活動」では、学校施設活用の認否について、問題が浮かび上がった。

これまで、課題に直面するたびに運営団体と地域展開を主導する教育委員会が協議・検討し、また学校とも連携し対応してきた。

さらに、関係各所が集まる「部活動検討委員会」のほか、特定の種目において少人数で開催する「作業部会」を招集し連携を図っている。しかし、結果的には流動的な運営となっていることは否定できない。

また、セキュリティー面では、「学校活動」と」「地域活動」の動線を分け、徹底することは困難である。今後、地域展開が進むことで関係者が慣れていくことにより、また、運営団体が学園内に常駐し管理施錠などを行うことなどより、この問題が解消されるのかを検討する必要がある。



湯沢学園：動線を分けて利用
地域部活動では交流玄関を利用、学校活動では生徒玄関を利用

今後の課題と対応方針

今後、地域展開が進み現存の部活動が「すべて地域活動となった場合」や「既存の部活動以外の種目を地域活動として加えた場合」、また、「中学生以外の者が参加者になった場合」には、部活動の地域スライドを狭義の意味として捉えることにより、学校施設の活用を認めないケースが懸念される。

そして、学校活動でない場合に、消耗品の購入、置き場、会場、移動手段に至るまで、現在学校活動として認められ使用している財源や施設を運営団体がどこまで利用可能なのか、また、運営団体の会場管理や施錠委託の必要性などが、今後の課題と言える。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

令和6年度の事業計画にはなかったが、一部の種目で平日の地域移行を実施した。また、現在では、中学生地域クラブを運営団体の一教室として各種目まとめて運営を行っているが、一部種目では代表・会計・事務を置き、規約等を定め、チームとして大会参加を視野に入れ、個々に教室の運営を行う動きもあることから、運営団体の業務が、広報・受付・統括業務に限定されることが期待できる。

取組の成果

平日練習の実績は下記表のとおり。
平日指導した指導員は卓球1名、バレーボール1名。

	平日練習回数（4～2月）	平日練習時間（4～2月）
卓球	15/32	43/93
バレーボール	20/36	25.75/74.75

出典：ユースポ！作成資料

指導者の属性や配置の工夫

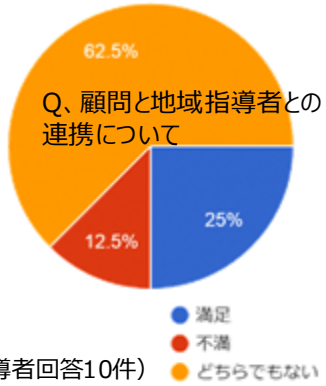
・指導者の属性：平日指導が可能な地域指導員は、定年退職などで現役を退いた指導者で、かつ、過去にその種目の指導に打ち込み、スポーツ指導に熱い人物。

指導の実績はあるが、指導者資格がなかったため、今年度助成を受けJSPO指導資格を取得した。

・配置の工夫：バレーボールの指導者は、会計年度任用職員として学校勤務している。「顧問」「部活動指導員」「地域指導員」と3つの肩書で指導を行っている。卓球の指導者は、「部活動指導員」「地域指導員」と2つの肩書で指導している。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

顧問と地域指導員は、4月初旬のミーティングで顔合わせを行いしライン交換する。顧問が指導計画をたて、地域指導員と共有することになっている。開始2年目で、大分仕組みに慣れてきた部分もあるが、一部顧問と連携が上手く行ってない種目もあり、学校のメール配信システムに地域指導員を加えるなどの対策が必要。



出典：ユースポ！実施アンケート（指導者回答10件）

今後の課題と対応方針

来年度、卓球については、全ての活動を地域指導員が担う計画となっているが、活動の仕組みが学校活動の範ちゅうにあることから、学校との連携は欠かせない。学校との連絡調整を現場の地域指導員が密に行うシステムが必要と言える。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

当町の改革は国のガイドラインに沿い、先ずは休日部活動の地域移行から段階的にスタートした。

しかし、地域移行を部活動の単なる地域スライドとみるビジョンでは、生徒数の減少や本業を持つ地域指導員のライフワークバランスだけをとってみても、持続可能な活動とはならない。

また、指導者謝金と参加費の試算、保護者が考える妥当な受益者負担額からみても、想定される参加人数から、安定的な財源を確保していかなければ持続可能な活動とならない。

開始２年が経過し、地域移行(展開)が単に部活動を学校外に移行(スライド)するといった事業ではなく、子供の活動機会を主軸に生涯学習も併せた地域の持続可能なスポーツ環境を構築してく事業として理解されるようになってきた。

新しい仕組みの構築は簡単ではなく、ビジョンがぶれ、計画どおりにいかず、運営が流動的になるのこともある程度仕方ないと考える。修正しながら柔軟に改革を進め、最終的に地域のスポーツ環境が良い方向に向かうよう取り組んでいく。

●成果の評価

・「作業部会」により、町、学校、運営団体の連携が昨年度より強化した。
・資格取得の助成により、1名JSPO資格を取得した。
・精神的にも身体的にも成長期の中学生の指導にあたり、学校関係者の講演が良い研修となった。
・既存の小学生チームと中学生地域クラブの合同練習や社会教育関係団体との融合などの動きが、地方における持続可能な地域スポーツクラブのかたちとして期待できるようになった。
・明確で現実的な地域展開のビジョン設定が、経費試算の前提条件となる。計画が現実的でなければ、事業実施後の修正が多くなると思われる。
・学校施設の活用にあたってのハードルが明確になった。
・本業を引退した地域指導員であれば、平日の指導まで事業を拡大することが可能。

●今後に向けて

開始２年で見えてきた問題を整理し、３年目となる令和７年度で「地域展開のビジョン」を明確にし、それを進める上で「理解」の促進を図りたい。

令和８年度から良い「実施」のスタートが切れるよう、令和７年度はあらためて「準備」の年とする。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

中学生



●結果抜粋

Q、地域クラブと部活動の区別について：区別できた、できないがおおむね半々。
Q、地域の方の指導について：7割が満足でコメントも好印象。一部関心がない、また、コーチから否定される等気になるコメント有
Q、活動日について：5割が平日も休日も活動することを希望しているが、土日は休みたい参加者も約3割いる。
Q、参加目的：仲間と楽しく活動が5割以上、次に技能・技術を身につけたいが3割、2割弱が大会を目指したい。

●結果抜粋

Q、生活への影響について：
顧問からは「週末家族と過ごせる」「自分の時間が増えた」等の声あり、逆に「生徒指導の面でフォローが必要な場面があった」との意見もあり。
地域指導員からは「生活に張りが出る」のほか「貴重な休日の自分時間が無くなる」という負担の声もあり
Q、指導面で：専門的な技術指導だけではない教育的指導や人間関係のトラブル等への懸念の声あり

顧問・指導者



保護者



●結果抜粋

Q、地域クラブと部活動の区別について：区別できたが6割、昨年は3割強に比べ大分改善。
Q、地域の方の指導について：6割が満足。専門的な指導、熱心な指導を評価する半面、連絡が行き届かずわかりにくい、意見を聞かずにどんどん進める等の意見が気になった。
Q、部活動のクラブ化について：あきらめ、期待、懸念あり
Q、活動日について：平日も休日も活動が76.5%
Q、活動の種目は、一つの種目に専念させたいが5割、いろんな種目を経験させたいは3割、他文化活動も欲しいとの意見有

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料



【指導者募集チラシ】

出典:ユースポ!



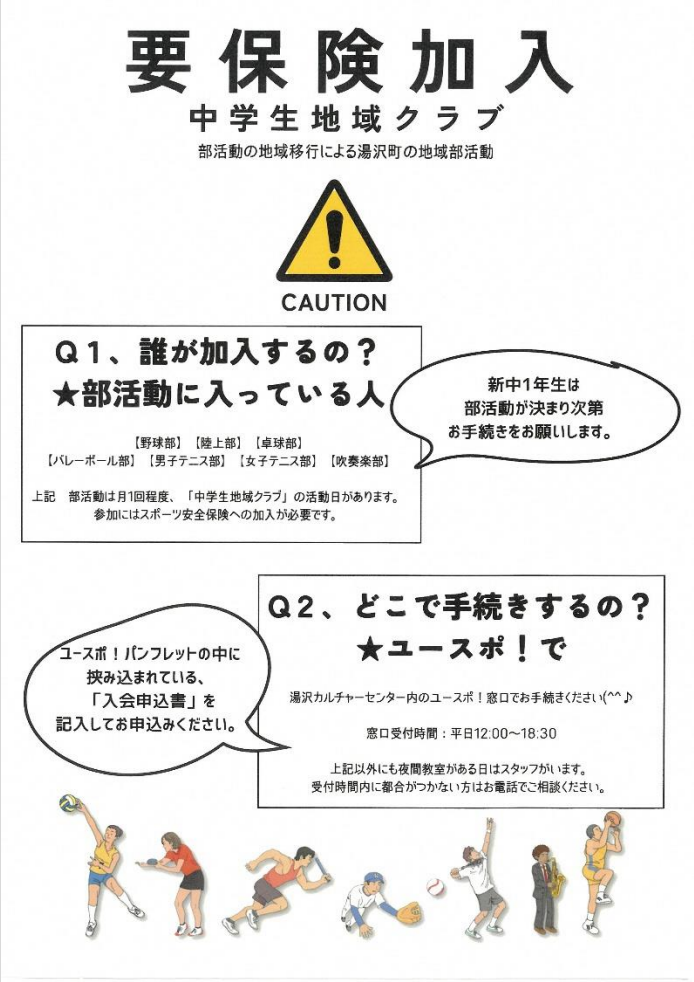
参加募集チラシ

出典:ユースポ!

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料



【保険加入促進チラシ】

出典:ユースポ！



**部活動地域移行WEB
ホーム設置バナー**



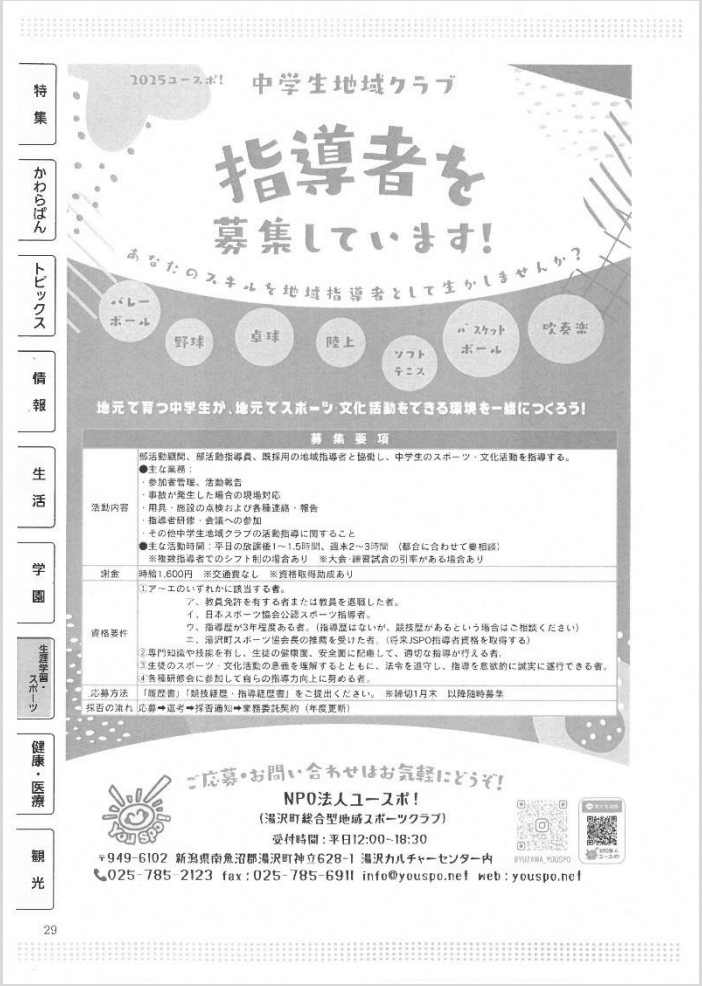
部活動地域移行WEBページ

出典:ユースポ！

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料



2025ユースポ！ 中学生地域クラブ

指導者を募集しています！

あなたのスキルを地域指導者として生かしませんか？

バレーボール　野球　卓球　陸上　ソフトテニス　バスケットボール　吹奏楽

地元で育つ中学生が、地元でスポーツ・文化活動をできる環境を一緒につくろう！

募集要項

活動内容	部活動顧問、部活動指導員、既採用の地域指導者と協働し、中学生のスポーツ・文化活動を指導する。 ●主な業務： ・参加者管理、活動報告 ・事故が発生した場合の現場対応 ・用具・施設の点検および各種連絡・報告 ・指導者研修・会議への参加 ・その他中学生地域クラブの活動指導に関すること ●主な活動時間：平日の放課後1～1.5時間、週末2～3時間（都合に合わせて要相談） ※複数指導者でのシフト制の場合あり　※大会・練習試合の引率がある場合あり
謝金	時給1,600円　※交通費なし　※資格取得助成あり
資格要件	①ア～エのいずれかに該当する者。 ア、教員免許を有する者または教員を退職した者。 イ、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者。 ウ、指導歴が3年程度ある者。（指導歴はないが、競技歴があるという場合はご相談ください） エ、湯沢町スポーツ協会長の推薦を受けた者。（将来JSPO指導者資格を取得する） ②専門知識や技能を有し、生徒の健康面、安全面に配慮して、適切な指導が行える者。 ③生徒のスポーツ・文化活動の意義を理解するとともに、法令を遵守し、指導を意欲的に誠実に遂行できる者。 ④各種研修会に参加して自らの指導力向上に努める者。
応募方法	「履歴書」「競技経歴・指導経歴書」をご提出ください。　※締切1月末　以降随時募集
採否の流れ	応募➡選考➡採否通知➡業務委託契約（年度更新）

ご応募・お問い合わせはお気軽にどうぞ！

NPO法人ユースポ！

（湯沢町総合型地域スポーツクラブ）

受付時間：平日12:00～18:30

〒949-6102 新潟県南魚沼郡湯沢町神立628-1 湯沢カルチャーセンター内

025-785-2123　fax：025-785-6911　info@youspo.net　web：youspo.net

29

【指導者募集　12/22発行湯沢町広報掲載】

出典:ユースポ！



冬のユースポ！

おやこでGENKI教室・冬

ちびっこスキー体験

小学校のスキー授業の前に、少しでも滑れるようになろう！

日 2月11日（火・祝日）、2月16日（日）
3月2日（日）、3月9日（日）
午後3時～4時30分
※受付時間：午後2時30分～2時50分
（レンタル希望の方は午後2時30分にお越しください）

場 岩原スキー場（ロッテ前集合）

費 1回500円　参加費はお子様のみです。
（保護者の方は無料）
※ユースポ非会員は別途保険料（1回ずつ200円）がかかります。

持 ・服 スキーウェア等の防寒着、防寒靴、手袋、帽子、ゴーグル、お子様はスキー・スキー板（レンタル有　スキー＆ブーツセット800円）※保護者の方は長靴でもOK

対 年中さん～年長さんとその保護者

定員 各回とも20名　先着順

申込締切 各回とも2日前まで

貯筋運動

筋肉を使って貯筋！貯筋！

お金は使えば減りますが、筋肉は使うと増えます！
貯筋通帳に記帳することでやる気アップ！

日 2月27日、3月6日、3月13日、3月27日、4月3日（各木曜日）　午前10時15分～11時

場 湯沢カルチャーセンター

費 1,500円（全5回）、1回ずつ参加　500円
※初めての方は別途貯筋通帳250円
※料金は初回参加時にお支払いください。

持 ・服 動きやすい服装、内履き、飲み物、タオル、筆記用具、貯筋通帳（既にお持ちの方）

申込締切 前日・までに電話・メール・ファクス・公式LINE・窓口にてお申込みください。その際、氏名・性別・年齢・電話番号をお知らせください。

中学生地域クラブ指導者募集！

あなたのスキルを地域指導者として生かしませんか？

地元で育つ中学生が、地元でスポーツ・文化活動をできる環境を一緒につくろう！
詳しくはNPO法人ユースポ！までお問い合わせください。

持 「履歴書」「競技経歴、指導経歴書」をご提出ください。
※締切1月末　以降随時募集

申　込

各種教室に参加をご希望の方は、ユースポ！へお電話、メール、公式LINE、またはInstagramDMにてお申込みください。

NPO法人 ユースポ！
〒949-6102
湯沢町神立628-1
（湯沢カルチャーセンター内）

● ☎025－785－2123
● FAX025－785－6911
● メール info@youspo.net
（受付時間 平日正午～午後6時30分）

ホームページ　LINE　Instagram

31

【指導者募集　1/26発行湯沢町広報掲載】

出典:ユースポ！

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【ダブルス練習】



【小・中合同練習】



【審判講習】



【準備体操】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

		内容
令和3年度	9月30日	休日における中学校部活動の地域移行への協力のお願い
	10月7日	休日における中悪口部活動の地域移行について説明会
	1月7日	第1回湯沢町部活動検討委員会
	1月26日	第2回湯沢町部活動検討委員会
令和4年度	4月14日	第1回湯沢町部活動検討委員会
	6月13日	第2回湯沢町部活動検討委員会
	7月21日	第3回湯沢町部活動検討委員会
	10月24日	第4回湯沢町部活動検討委員会
	1月13日	第5回湯沢町部活動検討委員会
令和5年度	5月29日	第1回湯沢町部活動検討委員会
	9月8日	第2回湯沢町部活動検討委員会
	3月5日	第3回湯沢町部活動検討委員会
令和6年度	5月28日	第1回作業部会
	6月4日	第2回作業部会
	7月9日	第1回湯沢町部活動検討委員会
	9月5日	第3回作業部会
	10月28日	第2回湯沢町部活動検討委員会
	11月13日	第4回作業部会
	12月24日	プレ作業部会
	1月23日	プレ作業部会②

準備期間

▼

移行実施

●ステークホルダー

「町スポーツ協会」、「学校運営協議会」、「地域指導員」、「保護者」、「総合型地域スポーツクラブ」、「中学校」、「教育委員会」

●経過

令和3年度、運営団体への協力願い、関係各所への説明会からはじまり、部活動検討委員会の立ち上げ、令和5年度開始に向け協議。開始以降は、さらに地域展開を進めるための課題を協議している。

●実施にあたって生じた課題

「休日部活動の一部を令和5年までに地域に移行する」といった目的で検討が進んだが、既に学校部活動自体が持続可能でない状況だったため、そのまま地域に移行しても持続可能なかたちにはならない。そこの議論が解決しないまま、一部移行開始に必要な検討が進み、実施に至った。

●今後の展開

持続可能なかたちを検討する流れも出てきた。今後は、作業部会で現実的な検討を行い、さらに検討内容の周知を図り、関係者の理解と合意を得ながら改革を進めていく。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

2024年度（R6） ・休日の一部を移行 ・平日もできる種目は一部実施			2025年度（R7） ・できるところからクラブチーム化 ・現状で継続が難しい種目は、各種目団体ごとに対応を協議	2026年度（R8） 休日の部活動停止	2027年度（R９）以降 完全移行に向けて、地元の人材、資源を生かし、方向を見失わず、できることをする
中学生地域クラブとして部活動の一部を運営団体が運営	既存部活動	野球	・野球協会を通じ、持続可能なかたちを検討 ・Jrチーム「フェニックス」との合体、大人のチームとの合体、広域チーム化検討		・部活動が完全移行した後も、地域のスポーツ活動が失われないよう、持続可能なかたちを模索し維持する。 ・町の施設を有効活用し生涯学習を推進する。 ・中学生のみならず老若男女問わず活動でき、関われる形を作る。 ・競技化できる種目は競技化も検討する。 ・指導者を育てる、助成する。 ・無理のない相応の費用負担を求める。
		女子テニス 男子テニス	・男女混合、Jrチームとの合同、大人チームとの合同を検討 ・クラブチーム化を検討 ・テニス協会を通じ、持続可能なかたちを検討		
		卓球	・クラブチーム化準備 ・Jr卓球との合体検討	・クラブチームとして発足	
		陸上	・クラブチーム化準備 ・Jrクラブ「アクティブ」との合体検討	・クラブチームとして発足	
		バレーボール	・広域チーム化検討、準備		
		（バスケットボール）	・指導者募集 ・愛好会としての運営も検討		
		（吹奏楽）	・指導員を通じ持続可能なかたちを検討		
		（文化部）	・地域移行外		
		スキー	・部活動と育成会の併存継続		
		水泳	・ユースポ！の教室として継続　・競技水泳として運営できるか検討		
	検討、実施事項		★各種目ごとに、継続可能なかたちを検討、できるところからクラブチーム化。 ★部活動が使っていた資金、施設、設備等を運営団体が使えるよう調整。 ★どこまでを地域展開と認めるか、既存部活動以外の種目拡大の検討。 ★指導者募集継続。 ★検討事項は随時広報、情報共有し、理解を求める。		